

【表紙・裏表紙解説】 あいち国文第12号

表紙、裏表紙写真は『瓜名月』（愛知県立大学附属図書館蔵）。なお、丁全体を見渡すことが出来るようになるため、写真には合成加工が施してある。

全一卷。半紙本。一〇丁。刊本。四つ目綴。朱書入あり。題簽は剥落しており、題簽痕に墨書で「俳諧 瓜名月」とある。乙由ほか著、百川編。元文四年（一七三九）十一月、藤原長兵衛・橘屋治兵衛・菊屋喜兵衛刊。享保十三年（一七二八）六月の曾北による序ならびに百川による後序がある。

享保十三年、伊勢から上洛した師の乙由を迎えた百川（昇角）が、吾仲らとともに催した京都広沢の月見の雅会の歌仙および発句を収めたもの。また、後序の後に「追加」として芭蕉などの月の句を収録する。『俳文学大辞典』における「瓜名月」の項目では、この追加分については「元文四年の刊行時に付されたものか」と推察されている。

百川は俳人であり、画家でもあった彭城百川（一六九七

—一七五二—)のこと。本姓は榊原。名は真淵。通称は土佐屋平八郎。百川は字(あざな)。別号に八仙堂、八仙観、張昇角、彭蓬洲など。若い時から俳諧・画をよくし、尾張出身で京都に出て、狩野派を学び、中国の元、明の南宗画を研究した先駆者でもある。その後の日本文人画にも大きな影響を与えた。また、蕪村への影響も指摘されている。『元明画人考』『本朝八傑集』などの著作がある。

参考文献：愛知県立大学附属図書館企画展示『愛知県史を彩る俳人たち2〜土朗・卓池・秋挙らと五仲庵〜』パンフレット(二〇一六)、『日本国語大辞典』第二版(小学館)、『日本人名大辞典』(講談社)、『俳文学大辞典 普及版』(角川学芸出版)、愛知県立大学図書館貴重書コレクション (<http://opac1.aichi-pu.ac.jp/kicho/index.html>)

(文責：熊澤美弓)